

令和 2 年度 学校評価報告書 1 (計画段階 実施段階)

学校名		福岡市立博多工業高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価 (総合)	
学校長	ふりがな	みやざき しんすけ		「第2次福岡市教育振興基本計画」に則り、市立高等学校の活性化へ向けた具体的方策を組織的に取り組み、「都市型工業高校」を目指す。 ○「Challenge博工」の学校スローガンを掲げ、進路実現 (進路保障) をメインテーマとし、ものづくり・資格取得・部活動の活性化において、生徒を磨き、教職員とともに「日本一の工業高校になる」。 ○今後10年を見据え「NEXT STAGE博工」～未来の自分をつくる。未来の博工を創る～の具体的方策を策定し推進する。 (1) 校訓「質実剛健」の精神を継承し、質朴、誠実、心やからだがかたく、強くたくましい生徒を育成する。 (2) 「安全第一」を重視し、工業教育やものづくりを通して、専門的知識や確かな技術を習得させ、工業発展や産業社会に寄与・貢献できる有為な生徒を育成する。 (3) 人権教育を推進し、個人の価値や尊厳を大切に、互いの人格を尊重する意識・意欲・態度を養い、実践行動ができる生徒を育成する。 (4) 礼儀や秩序、規律を重んじ、勉学や部活動に動しむ学校文化を創造し、誇りや自信を持った生徒を育成する。		(1) 今年度の周年行事の成功を目指し、生徒会を中心とした挨拶運動・環境美化運動を継続し、規律を守り、自発的な判断・行動能力を高めさせ、諸行事の円滑化を図り、誇りを持たせる。(総務部) (2) 授業規律の確立を推進し、新学習指導要領に即した授業改善の検討を行う。特にPDC Aサイクルを意識した、授業と評価の一体化の実施に向けた準備と試行を行う。(教務部) (3) 企業が求めるコンプライアンス (法令順守) の観点から、自己指導能力 (適切に判断し、行動できる力) を身に付けさせる。(生徒指導部) (4) キャリア教育活動を通して、自ら進路を主体的に選択決定できる能力や態度を育成し、進路志望の達成に向けて支援・指導を推進する。(進路指導部) (5) 生徒主体での周年行事 (式典・体育祭・文化祭) を成功させるとともに、部活動を通じて「人間力」「創造力」の向上を図り、活気のある学校づくりに取り組む。(特別活動部) (6) 各学科が特色を持ち、工業技術「各種競技会・資格取得・ものづくり」の向上のために企業や大学等との積極的な連携や知的財産教育等に取り組み、基礎から高度な技術まで身につけさせる。また、効果的な広報の充実を行う。(工業教育推進部) (7) 生徒・保護者に寄り添うとともに、生徒に高校生としての人権感覚を身に付けさせ、心地よい学校生活を送れるように努める。(人権教育推進担当)		学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	宮崎 信介						B	B
校長本校在任年数		5年						B	B
学校関係者 評価委員会 委員長	ふりがな	ふくしま さだあき							
	氏名	福島 貞昭							

昨年度の成果と課題	◎成果:①資格取得や研究発表会での優れた成績②生徒会主体による活動の定着、生徒会役員や生活委員会の交通安全指導による規範意識向上③進路状況 ◎課題:①新進学コースの充実②観点別評価 (評価規準・基準) の検討・導入③キャリア教育の再検討・大学入試改革への対応④規範意識の育成に向けて更なる取組の実施
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・ 学習指導	新学習指導要領の実施の伴う教育課程の編成および授業改善の検討	令和4年度に向けた教育課程を完成させる。教育課程の編成にあたって、カリキュラムマネジメントの考えを、研修等を通して全職員に周知する。	B	教育課程の編成にあたって、新学習指導要領の主旨の共通理解をはかるため職員研修を実施し、各教科からの意見を踏まえ、令和4年度入学生教育課程表を完成させた。11月末に教育委員会への提出を終えた。 授業改善への取り組みとして『PDCAサイクル』をキーワードに2学期間で生徒のアンケートを中心に授業チェックを行いその後、生徒の意見に対してアクションを行って来ている。現在、その内容についてアンケートを実施中である。	B	・工業教育の専門性を高める教育課程が各学科で研究され施行されることは、誠に喜ばしい限りです。 ・各学年とも、学習指導に力を入れ、「わかる授業」「考える授業」を大切に授業を進められたことが、昨年も含めて成績不振者の大幅な減少になっている。 ・生徒の授業アンケートを活用され授業改善の工夫を行う等向上心旺盛で立派である。 ・初めての休業期間中、オンライン環境がいかにこれから先大事が知ることができた。 ・福岡市のGIGAスクール構想によりiPadが一人1台配布されたが、使い方については、もっと機能の制限が必要なのではないか。	教育課程については完成したので、今後は移行期の時間割編成について着手していく。授業改善及び授業と評価の一体化については、着手したばかりであり、今年度は特にコロナの影響で臨時休校や、日程の見直し等が多く、十分な取り組みまでには至っていない。今後も継続して、検討・実践を行っていく必要がある。
		評価方法の改定および授業と評価の一体化について、PDCAサイクルを意識した検討を行う。	B				
	授業規律の確立	教室環境の整備および整理・整頓の徹底 チャイム席を守る。	B				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	礼節を重んじた指導の徹底 (より良い行動の積み重ね)	B	職員と生徒会生活委員による登下校指導において交通ルールやマナー遵守を生徒に啓発するとともに挨拶運動・身だしなみ指導に取り組んだ。生徒会生活委員会の粘り強い指導で自転車マナーは良い方向に向上した。全職員での風紀検査で学校全体は落ち着いているが、小さな違反は粘り強く指導しているが、すべてを改善できてはいない。今後も全職員で継続して、粘り強く指導していく必要がある。	B	・生徒たちの規範意識の希薄化については、日ごろから根気強く指導を行っていく必要がある。 ・特に自転車の乗車マナー、携帯電話やSNSの取扱いについては、厳に指導を継続的に行っていく必要がある。 ・生徒の学校内での生活態度は良好である。全教職員の指導の成果である。 ・事故や怪我が1つでも減るようにお願いします。	全生徒に自転車乗車マナーを徹底させるために職員による登下校指導とともに現行の生活専門委員による活動をより拡大・発展させ啓発を強化していく。 あいさつ、ことば使い、身だしなみ等を徹底指導することにより規範意識の醸成を図っていく。
		全職員、生徒会生活委員会による登下校指導 (挨拶・身だしなみ・自転車マナー) と風紀検査での徹底指導	B				
進路指導	確かな進路実現 (就職指導)	正しい生活習慣と基礎学力を定着させた生徒を育成することで、企業との信頼関係を確立させる。	B	各学年LHR等を通じて進路に関する取り組みができた。2年生のインターンシップは実施できなかったが、代替として講演会や諸活動で、社会性・勤労観を身につけさせることができた。早期離職に関しては防止できていない状況であり、企業との連携を強化しながら原因追及に努め、防止策を講じなければならぬと考える。 学年部・各教科の協力を得つつ組織的な進学指導に取り組んだ。進学補習の実施が困難となり、スタディサプリを活用した。新書式の進学調査書について早期から検討を重ね、スムーズに運用ができた。出願や入試方法の多様化および学校推薦型選抜への対応の強化が課題である。進学コースに対応した新しい推薦内規の適用について今後も綿密な共通理解を図る必要がある。	A	・生徒に対する進路保障は、将来の夢や希望を実現させる大切な機会である。それだけに学校は大きな責任課題であると言える。 ・今年度も、就職、進路希望者ともほぼ全員が進路実現ができていたことは、大変立派である。 ・コロナ禍において、進学・就職どちらも一番大変な部分だったと思うが、結果からするとどちらも素晴らしい内定で、生徒も先生方も必死にやってくれたのがとても伝わってくる。進学先も多岐にわたりとても感心する。 ・次年度どうなるか不透明だが、博工生には是非自信をもって挑む事を継承してほしい。	コロナ禍におけるキャリア教育指導のあり方、進路に関する取り組み (行事等) の検討に入る。 次年度採用予定状況について、早期に企業側へ調査を実施し、動向等の情報収集に努める。 新しい推薦内規の運用、およびインターネット関連の出願・入試対応について教員研修の設定 進学補習の在り方の検討と代替案の策定 学校推薦型選抜を志願する生徒に対し、学年部・各教科と連携した指導体制の構築に努める。
		キャリア教育の充実・企業との連携により、早期離職者の防止に努める。	B				
	確かな進路実現 (進学指導)	大学入試改革への対応 (指定校推薦入試への依存からの脱却や、専門コースからの国公立大学専門高校枠入試への挑戦など) について論議し、理解を進める。 進学コースの体制整備 (選抜方法の改善や推薦内規の見直し、高大連携を含めた活動計画の策定など) を行う。	B				
特別活動	生徒会・部活動の活性化	生徒会専門委員会における諸活動の活性化	B	今年度は様々な行事が中止となったが、生徒会役員が中心となり、自発的に行動し、できる範囲内での行事をおこなうことができた。また部活動においてもかなり厳しい状況であったが、多くの部活動が学校活性化のために貢献してくれた。今後はもっと主体性を育てるための活動を取り入れ、活気のある学校づくりが必要であると考える。	B	・生徒の主体性や、学校の活力、特色を生み出すためには、生徒会活動や部活動は是非必要である。現在、生徒の多くが部活動で活躍し個性を發揮している学校は活気に満ちている。 ・文化部は楽しみな分野がたくさんあるが、特に工業系は、「極める」ことへのこだわりが素晴らしい、様々な記録・成績はすごい。熱血指導してくださる先生方がいて生徒は恵まれている。 ・運動部は悔しい思いをしたと思うが、いい意味で悔しさをバネにしてほしい。	今年度の反省を次年度に活かし、今年度できなかった様々な学校行事を生徒主体で成功させる。 コロナ禍にあった部活動生の意欲を低下させないような活動を取り入れて行きたいと思う。
		部活動生の意識向上と諸活動の活性化	B				
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し	各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る。課題研究、知的財産教育の推進・充実を図る。	A	課題研究の取り組みは、各学科とも積極的に取り組み、校内生徒研究発表会も、コロナ禍でもリモートで行うことができた。福岡県工業クラブ連盟生徒研究発表会においても、電子情報科が三位入賞を果たした。、昨年度生徒研究発表優勝の自動車工学科の空気エンジンを使用した自転車で、ギネス記録達成し認定された。知的財産教育においては、本年度もINPITにおける知財力支援事業を継続して行い、デザインイベントコンテストにおいて入賞した。機械科のものづくり専門部の取り組みにおいて、切削加工ドリムコンテストで優勝した。 コロナ禍において、前期技能検定は中止され、その他の検定も上半期はほとんど実施されなかった。福岡県主催の職員研修も行わず、研修の機会がなかった。後期の技能検定及び各種検定は行われ、従来通りの成果が得られると思われる。	A	・工業高校の特徴を象徴するように、各学科における生徒たちは、市や県、全校規模の研究発表会やコンテストに挑戦し優秀な成績を収めている。誠に誇らしい限りである。 ・工業教育の専門性を高める「ジュニアマイスター」資格も各学科で取得する生徒が増加傾向にあり立派である。 ・資格取得も今年度はチャンス逃した生徒も多いと思われる。考え方を変えれば働かながら進学先でもチャレンジできるものが多いと思うので、卒業後も引き続き挑戦してほしい。 ・工業資格は必ず武器・自信になると思うので、みんなでもっと上を目指してほしい。そうなれば指導をお願いしたい。 ・博工ならば、ジュニアマイスター学校表彰ももっと上位に行けるはずだと思う。 ・中学生に夢がもてるようには是非来年度以降高校でのそれぞれの科で学ぶ機会がもてるとうれしい。貴校にはものづくり等に長けた生徒がおり、是非高校生から学ぶ出会いがあればと考える。	課題研究の取り組み及びそれに連動した生徒研究発表の取り組みは、ここ数年間、優秀な成果を挙げているので、このままで取り組みを継続させていきたい。 外部との連携は、コロナ禍では、極めて取り組みにくい状況になっているので、リモートでの連携や、今までにはない連携の在り方を、検討していく必要がある。
		資格取得プログラムを再検討し、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指す	B				
	資格取得・各種検定合格率の向上	資格取得指導を充実させるための、教員の資質向上を図る	C				
修学支援	生徒の自己実現に寄り添い、支援する	生徒・保護者の要望を聞きつつ、特に支援が必要な生徒に対してきめ細やかな支援を行う。	A	昨年度より通級指導員やSSWが配置され、支援体制づくりにより助言を借りることで今までにない体制・対応ができた。各種奨学金・給付金制度においては今年から手続きが変ったものが多く対応に苦慮したが、素早い取り組みでスムーズに対応できた。 各種研修会に参加してもらうことで、様々な情報を共有することができた。コロナウィルスにより屋形原特別支援学校との交流は中止となった。しかし、障がい者の方を講師として招致し講演を実施できた。	B	・教育相談や研修会を通じて「学習支援、いじめ防止、不登校、人権啓発、携帯電話」等多様化した課題について職員全体で取り組むことが大切だと思う。 ・コロナ禍で様々な交流や研修等も減ったかと思えます。自粛生活などでストレスを抱える中、SC、SSWも今までにない対応を余儀なくされたかと思う。今後を考えると「コロナ差別」も当面の課題だと思う。難しい部分はあるかと思うが、是非継続的にご指導をお願いしたい。	「気になる生徒」においては定期的な情報交換をするとともに、状況によってケース会議を開き、生徒および家庭の思いに寄り添える組織づくりを目指す。あわせて生徒一人ひとりが安心して修学できる雰囲気づくりを行う。 就学に関する様々な支援体制があり、生徒に有効な支援ができるよう各方面ともに協力体制を築いていく。
		各種奨学金・給付金制度への相談体制を充実させ、周知と理解を広げる。	A				
	校外外で実施される研修会や学習会への積極的な参加を促進する。	B					
	差別の現実から学びを深める	E					

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。